

令和5年11月17日（金）

あさひの日だまり

NO.28

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～マラソン大会がありました～

本当によく頑張りました

「今日、本当に嫌なんだよ!」「マラソン大会、無くならないかな!」と言いながら登校してきた子どもたちが、顔を赤くして真剣な表情でゴールへ戻ってきました。必死に走っていました。「こんなに頑張れるんだ、子どもたちの力ってすごいな」と思います。

早い子もいます。すごいスピードでグラウンドへ駆け込んできます。きっとこの先も色々な大会で活躍することがあると思います。活躍を期待したいです。そして、ずっと応援していきたいです。

先頭がゴールしてからずっと時間がたってからグラウンドへ戻って来る子がいます。一步一步ゴールへ近づいていきます。走ることをやめ歩きだすときもあります。歩みを止めなければかならずゴールできるということを、頑張ることの意味を、その子は自らの姿で教えてくれます。「すごいぞ、頑張れ!!」と心の中で声援を送っていました。

スタート直前「やだなー」とつぶやいている子に「やだっていう気持ちもあるけど、心の奥の方には頑張ろうって気持ちもあるんじゃない?」と声をかけてみました。その子は「うん」と答えてくれました。きっと多くの子どもたちも同じなんだと思いました。やだなという気持ちと、でも頑張ろうという気持ちと一緒にいるんだと思います。そして、多くの子どもたちは、やだな走りたくないなという気持ちを一生懸命押し殺して、精一杯の気持ちとエネルギーで頑張ったんだと思います。そんな子供たちの頑張りがあふれたマラソン大会が終わりました。

一番の表情は、走り終えて満足感を感じている子どもたちの表情でした。そんな表情を写真に収めてみました。



～校長講話がありました～

1冊の絵本を紹介しました

16日の木曜日に校長講話がありました。朝は冷え込むので各教室でZoomを利用して聞いてもらいました。内容は1冊の絵本の紹介です。題名は「戦争をやめた人たち」です。

なぜこの絵本にしたかという、毎日の新聞やテレビの報道で戦争について語られない日はありません。そしてその報道には必ず現地の映像や写真が同時に報道されています。私は、このニュースがテレビで流れると思わずチャンネルを変えてしまうことがあります。それは見たり聞いたりすることが辛くて堪えられないからです。でもそんなとき「お前はこの現実から目をそらしていいのか」というもう一人の自分の叫び声が聞こえてきます。「お前は目をそらして知らぬ顔をしていればそれで済むかもしれないが、ニュース画面のその場で必死に命をつないでいる人たちの思いを画面から目をそらさず、懸命に感じ取ろうとしなくてよいのか」そう心の叫びは続きます。

私たちの周りには、かけがえのない大切な人がたくさんいます。家族、近隣の皆さん、友だち、お世話になった方々、思い浮かぶいくつもの顔があります。思い浮かぶ顔はすべて笑顔です。私たちは沢山の笑顔に囲まれ、包まれ支えられて生きています。

その方たちの姿が突然空から落ちてくるミサイルにかき消されるということを想像などとてもできません。その思いはすべての人に共通です。国を超え、性別を超え、人種を超え、国境などという境界線はそこには存在しません。私たちはその思いが持つ力を信じたいと思います。そんな気持ちを込めてお話をさせてもらいました。



敵対するイギリス軍とドイツ軍の最前線で
クリスマスイブに起きたお話です。

両軍はクリスマスソングを歌い合い
手を握り合いました。



「メリー・クリスマス」ふたりは、がっかりとあくしゅしました。



サッカーの試合をしました。その後、4年間も続いた戦争の間、銃の打ち合いの際には銃口を相手には向けず、空へ向けて撃ったのだそうです。